

めあて

単元で学習したことを生かし、イメージした色を再現してみよう。

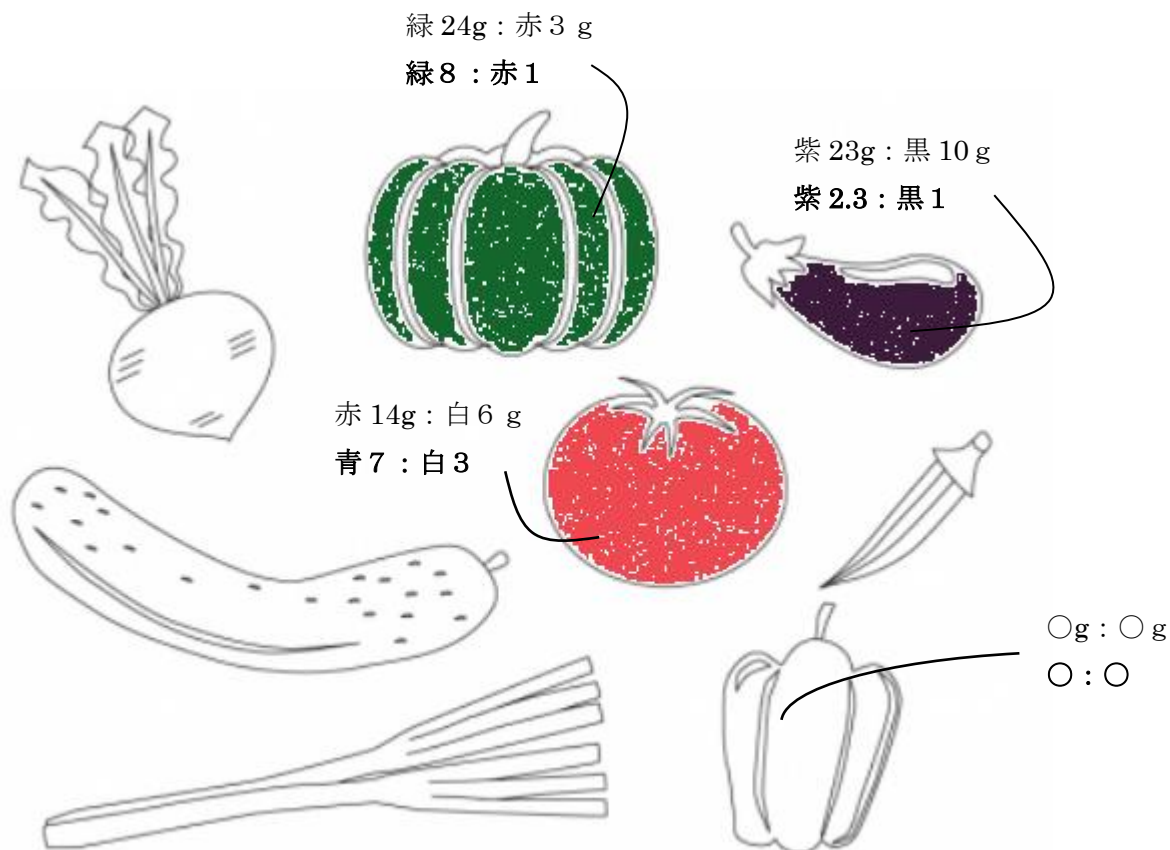
### 発展課題 3

わたしたちの身の周りにはいろいろな色が存在しています。画家は、空や山、人物、建物など、様々なものの色を”絵”で表現します。塗装職人は、周りの風景に合う色を調合し建物の色を塗ったり、風化してしまった寺社仏閣の装飾物を当初と同じ顔料を使って修復（色の塗直し）したりします。人によって感じ方は違いますが、「オレンジは暖かい」「水色は涼しい」といった色がもつイメージに合わせて、服、車、部屋などのカラーデザインを考える仕事もあります。そういった色を表すためには、様々な色を混ぜ合わせる必要があります。

自分の目に映る色やイメージした色を、比の考えを生かして再現したり表現したりできるようにしたいと思います。ぬり絵の中から一つ選び、山や川などを2色の絵の具を混ぜ合わせ（例 赤 2：青 1）色を塗りましょう。また、色の配合比率（○：○）を書き残し、友達が同じ色で再現できるのか試してもらいましょう。



(例)



(提出フォルダ) 発展 3

### 学習の手順例 (ヒント)

- ①ぬり絵を一つ選ぶ
- ②ぬりたい箇所に合わせ、ぬりたい色を右のリンクで探す <https://onl.bz/X2zz7wf>
- ③ぬり合わせる色の重さを量り、色を作る (提出物)
  - 手順 1 : シャーレに青色の絵の具を入れ、重さを量る
  - 手順 2 : 同じシャーレに赤色を入れ、総重量から青色の絵の具の重さを引き、赤色の重さを求める
  - 手順 3 : それぞれの色の重さを記録し、簡単な比に直す (まだ混ぜない)
    - (例) 青 24g : 赤 12 g → 青 2 : 赤 1
  - 手順 4 : 別のシャーレに絵の具と混ぜる水の量を量る
  - 手順 5 : 2つの色と水を全て混ぜ合わせ、ぬり絵に色をぬる。
- ※シャーレに入れた絵の具は全て混ぜ合わせ、色の調整はできないとする。(筆で色を混ぜたり、途中から絵の具を足したりすると、重さが変わり、比率がわからなくなるため)
- ④ ②~③のくり返し
- ⑤ぬり終えたぬり絵に簡単にした色の比を書込み、友達に同じ色でぬれるか試してもらう  
or 友達が作った色の比率で、友達と同じぬり絵をぬってみる